

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフ コース	専攻	対象学年	2 年
講義日	令和 7 年 11 月 20 日(木曜日)			
テーマ	ひとと環境にやさしい交通／まちづくりを考える			
講 師	神戸大学名誉教授 小谷 通泰			
講義内容				
わが国では、1960 年代に入って都市への人口の集中と急激なモータリゼーションが進行し、住宅地は郊外部へと広がり、郊外型の大型商業施設の立地や官公署・病院等の都心部からの移転も相次いだ。このような市街地の拡大は中心市街地の衰退をもたらすなど都市構造を歪めるとともに、車なしでは日常生活を送ることが困難な状況を生み出してきた。近年は少子高齢化・人口減少が急速に進展し、利用者の減少により公共交通サービスが維持できなくなったり、買い物難民が増加したりするなど、環境面はもとより、経済活動・社会生活の持続可能性という面でも事態は深刻化している。 都市交通において、こうした弊害をもたらした大きな要因は、自動車保有台数の増加と郊外部への市街地の拡大により、自動車利用が増加したことにある。したがって、交通政策の観点からは、過度な自動車利用への依存から脱却し公共交通、徒歩・自転車といったグリーンモードの利用への転換を図ることが必要である。また同時に、まちづくりの観点からも、人口密度の薄いまま拡大した市街地を集約化し、公共交通を軸としたコンパクトな都市構造を実現することが求められている。さらに中心市街地の賑わいを創出し活性化を図るために、ウォークアブルな都市空間を形成することが鍵となっている。 本講義ではこうした状況を踏まえ、ひとと環境にやさしい交通／まちづくりを実現するために、目指すべき方向性や国内外における具体的な方策を示すとともに、課題について述べたい。				
講師からのメッセージ				
わが国でも宇都宮で 75 年ぶりに路面電車が新設されたり、各地の都心部で歩行者空間が拡充整備されたりするなど、まちづくりと交通との連携に大きな期待が寄せられています。本講義でもその重要性について皆さんに理解して頂ければと思っています。				

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	専攻	対象学年	2年
講義日	令和 7 年 9 月 18 日(木)			
テーマ	脱炭素社会： (1)再生可能エネルギー先進国;ドイツ、デンマークの取り組み (2)日本の再生可能エネルギーの現状と課題			
講 師	和田 武(工学博士、自然エネルギー市民の会代表、元・日本環境学会会長)			
講義内容				
(1)再生可能エネルギー先進国；ドイツ、デンマークの取り組み 再生可能エネルギー普及に先進的に取り組んできたドイツとデンマークでの状況について解説する。両国は世界に先駆けて風力発電を導入し、再エネ普及を推進してきたが、その要因として早くから適切な普及政策を採用してきたことと共に、市民や地域が普及の担い手として重要な役割を果たしてきたこと、それによって多くの好影響が社会にもたらされていることを学ぶ。 その中で、演者が調査してきた様々な取り組み事例から、再生可能エネルギー普及に取り組む自治体・地域社会が豊かに自立的に発展していることを紹介する。 (2) 日本の再生可能エネルギーの現状と課題 日本の再生可能エネルギー普及は、他国より立ち遅れている。2012 年に民主党政権下で固定価格買取制度が導入され、太陽光発電を中心に普及が進み始めたが、その後、再エネ発電の普及を抑制する傾向も現れ、普及の勢いは弱まっている。その要因としてエネルギー政策と電力関連制度を分析し、問題点について論じる。 今後、気候危機防止のために再エネ 100%の持続可能な社会実現の可能性を検討し、市民やあらゆる地域主体が再エネの生産者、供給者、消費者としての取り組みを強化することが重要であることを論じる。				
講師からのメッセージ				
演者は、市民共同発電所の普及に取り組み、固定価格買取制度の調達価格等算定委員を務めるなど、再エネ普及に関わってきました。日本の持続可能な発展のために、私たち市民が再エネ普及の主体者になることの重要性を認識していただければ幸いです。				

(令和 7 年度)

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	2年
講義日	令和 7 年 7 月 16 日(水)		
テーマ	激甚化する自然災害(気象災害・地震災害)と防災・減災 (1)六甲山周辺の気象災害・土砂災害と防災 (2)兵庫県南部地震と六甲変動、南海トラフ地震への備え		
講 師	髯本 格 (元神戸親和女子大学教授・かがく教育研究所)		
講義内容			
1 時間目 激甚化する気象災害・土砂災害と防災			
・最近数年間の日本列島での自然災害(気象災害、土砂災害)振り返ります。			
・六甲山地周辺(阪神間・神戸)での過去の水害(昭和 13 年、昭和 42 年など)とその後の対策について考えます。			
・六甲山地周辺の地形・地質をふまえて、今後起こる可能性のある土砂災害と対策・防災について考えます。			
2 時間目 兵庫県南部地震と六甲変動、南海トラフ地震への備え			
・兵庫県南部地震とは何だったのか？ なぜ、阪神・淡路大震災になったのかを考えます。			
・六甲変動の一コマとしての兵庫県南部地震について考察します。			
・なぜ、地震が起こるのか？ 地震の活動期に入った日本列島について考えます。			
・東日本大震災とその教訓について考えます。			
・必ず起こると予想される南海トラフ巨大地震と防災対策について考えます。			
講師からのメッセージ			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）

コース 専 攻	ECO ライフ	学年	2 年
講義日	令和 7 年 5 月 1 5 日（木）		
テーマ	（自然共生）神戸の絶滅危惧種とその保全		
講 師	里地・里山の保全推進協議会 事務局 大嶋 範行		
講義内容			
神戸市には約 8,000 種の動植物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、昆虫類、淡水・汽水産甲殻類、陸産・水棲貝類及び維管束植物）が暮らしています。これは 150 万人が住む大都市としては、非常に高い数値となっており、それは海あり山ありの多種多様な自然環境に恵まれた神戸ならではの特徴と言えます。 しかし、この 8,000 種のうちの実に 12%にあたる 932 種は絶滅が危惧される生きものとして、「神戸版レッドデータ 2020」に記載されました。このレッドデータは、2 度目の改訂が行われ、2021 年 3 月に公表されたもので、前回と比較すると 61 種が新たに追加され、70 種がランクアップしています。 環境省の調査によれば、里地・里山は日本の国土の約 4 割を占め、この里地・里山に我が国の絶滅の恐れがある生きもののほぼ半数が暮らしているとされています。 今回の講義では、生物多様性が高いとされている里地と里山が接する場所に立地する棚田とその周辺に見られる動植物を中心に話を進めます。今、市内の棚田では耕作放棄地が急速に増加しており、生物多様性の低下が懸念されているところです。			
①里地・里山とは			
②里地・里山は動植物の宝庫			
③里地・里山のホットスポットは棚田			
④消えゆく里地・里山の動植物			
⑤里地・里山での保全活動			
⑥今後私たちにできること			
講師からのメッセージ			
里地・里山の豊かな自然を守るために、シルバー世代が中心となって活動を展開しながら、その成果を若い世代に継承していくような仕組みづくりが望まれます。また、生きものの減少は絶滅危惧種に止まらず、普通種にも及びつつあることを知ってもらいたいと思います。			